

新生・八幡平市、 始動

農と輝の大地―
みのり ひかり

岩手山・八幡平・安比高原の

恵みに満ちた、交流新拠点をめざして



C O N T E N T S

ごあいさつ	4
[特集]	
新たなる農と輝を求めて	8
[施策]	
自然環境の保全と活用	21
社会基盤の整備	22
生活環境の整備	23
産業の振興	24
連携・交流の促進	25
保健・福祉の充実	26
教育・文化の充実	27
観光	28
温泉	30
特産品	31
イベント	32
文化財	33
開かれたまちづくりの推進	34
議会・行政	35
八幡平市民歌	36
市章・市民憲章・花鳥木	37



ようこそ、 人と人をつなぐ 「農と輝の大地」へ

いくつもの出会いが生まれ、新しいアイデアやコミュニティが育つ場所。
八幡平市新庁舎は、人と地域、過去と未来、すべてを「つなぐ」役割を担います。



ごあいさつ

八幡平市は、平成17年9月1日、旧西根町・松尾村・安代町の3町村が合併し誕生しました。県都、盛岡市の北西に位置しており、西は秋田県仙北市、鹿角市、北は青森県田子町に接しています。また、東北自動車道、八戸自動車道や国道289号、さらには市内に12駅を有する「良花輪線」が縦貫しており、基礎的な交通基盤が整った地域です。本市の掲げる将来像は「農と輝の大地」で、その実現を目標としてまちづくりを展開しています。「農」とは、本地域の基幹産業である農業を意味し、米やほうれんそう、りんどう、畜産物などに他、誇る品質に誇れ、かつ豊富な農産物をイメージしています。また、健康や生きがいや喜びにあふれた人々が「結（ゆい）」の精神で連携、共同していくまちの意味でもあります。

「輝」とは、萌える若葉の緑、清らかな水と澄んだ空の青、鮮やかな紅葉の赤、純白の雪をイメージし、豊かな森林と躍動感あふれる観光や商工業を表しています。また、北東北の交流拠点として、人や物、情報が活発に行き交い、未来に向かって限りない発展をする市の将来像を意味しています。

こしは、合併から10年目を迎え、新たな八幡平市の出発となる年になります。今後とも八幡平市の発展のため、市民の皆さんのご協力をいただきながら「農と輝の大地」の実現を目指してまいります。ぜひ、この市勢要覧をご覧いただき、八幡平市のまちづくりの理解を賜りますようお願い申し上げます。

八幡平市長 田村 正彦



「COCOAR(ココアル)」をダウンロードして、
動画を閲覧いただけます！

動画再生には、スマートフォンおよびARアプリケーション「COCOAR(ココアル)」(無料)のダウンロードが必要となります

①「COCOAR」をダウンロードして下さい。※COCOARはApp StoreもしくはGoogle Playより入手。
②「COCOAR」を起動し、マークのついた画像を認識させると、画面上でメッセージを聞くことができます。

「スキャンマーク」にスマートフォンをかざすと動画メッセージが始まります！

スキャン



庁舎1階にある「結のひろば」は、市役所と多目的ホール棟、JR花輪線北森駅、駐車場をつなぎ、市民協働・交流の拠点となるスペース。市役所エントランスホール、駅待合室、多目的ホールロビーとしても活用されます。ここを基点に、市民活動などに利用される多目的ホールと執務室が両翼に位置します。

2階は執務部門のほか、市長室などを配置。3階には、議会審議を真横から傍聴できる斬新な市議会議事堂議場と、見晴らしのよい展望スペースを設けた議場ロビーがあります。傍聴席からは議場全体を見渡やすく、活発な議論が生まれる環境となっています。

市役所と多目的ホール棟を覆うなだらかな形状の屋根にも、技術と機能が結集しています。2階の緩やかな勾配屋根の軒先にはヒーターを設け、凍結時には樋で落雪を防ぐなど、雪国ならではの工夫を施しています。

また、冷暖房設備は市役所の建物杭基礎を利用した地中熱採熱システムを採用し、環境への配慮に努めています(詳しくは16ページ)。

「役所仕事」ではない、「人がつながらる」場所



3町村合併により八幡平市が誕生して10年。合併協定に盛り込まれた最重要事業の一つである新庁舎が完成しました。新庁舎のコンセプトは「つなぐ」。これには、5つの意味が込められています。

- 市役所・多目的ホール棟・JR花輪線北森駅を「つなぐ」
- JR花輪線を介して西根・松尾・安代の3地域を「つなぐ」
- 雄大な自然景観を背景に、庁舎を風景の中で「つなぐ」
- 地産地消のデザインで、地域の活力を施設整備に「つなぐ」
- ユニバーサルデザインで、人と人、心と心を「つなぐ」

農業の6次産業化へ 岩手エッグデリカを試み

平笠地区にある株式会社岩手エッグデリカは、平成24年6月に「いわて6次産業チャレンジ支援事業」を活用して「サラダファーム」を設立。卵や農産物などの販売に加え、フラワーガーデンやレストランなどを併設し、新たな観光スポットとして定着しています。

また、冬期間にも雪合戦などのイベントを企画し誘客を実現。「八幡平市を訪れた人をもてなすため、ソフトの充実を図る」という取り組みに、県内外から注目が集まっています。



サラダファーム



新規就農者の櫻隆裕・真子さん夫妻



楽しくおいしい！
農業の素晴らしさを
のぞいてみましょう

マップ周辺をスマホやタブレットのアプリ(COCOAR)でご覧ください。
(詳しい使い方はページ参照)

第一次産業の生産力向上 農業と他産業との連携

Close-up 01 「八幡平市新規就農」

平成17年の3町村合併から間もなく10年、「農と輝の大地」という将来像を掲げスタートした新生・八幡平市のまちづくりは、地域と人、人と人をつなぐ交流拠点づくりへの取り組みでもありました。そして、平成26年11月、新たな交流拠点となる八幡平市新庁舎が完成し、取り組みもまた新たなステージへ。これからの八幡平市を担う人々やプロジェクト、未来への胎動を感じさせるトピックスを紹介していきます。

新規就農ほか経営支援など 農業者の頑張りを後押し

食の安全性が注目される中、農業へ関心を持つ人が増えていきます。県内でも新規就農者数は毎年200人を超えており、40歳未満の若い農業者も目立ちます。

八幡平市では「八幡平市新規就農者等支援事業」を創設。市の重点推進作物のほうれんそう、りんどう、トマト(ミニトマト含む)、ピーマン、キュウリを選定した就農希望者に対し、生活費の支援などを行っています。平成25年7月現在、この事業を利用して8人の新規就農者が活躍しています。

また、認定農業者制度に基づき担い手指導員を配置し、農業経営を支援しているほか、県から権限委譲を受けて独自にエコファーマーの認定も行っています。

ブランド力も生産の追い風 ほうれんそうで農業経営

雨よけほうれんそうを栽培する櫻隆裕さん。非農家の出身ですが、市の新規就農者等支援事業を利用して2年間の研修後に独立、就農3年目の現在は1ヘクタールハウスも12棟まで増えました。

「家族を持つ自分にとって、支援内容が一番具体的だったのが決め手」と話す櫻さん。「栽培する上で『西根ほうれんそう』というブランドは大きな強みであり、品質向上に貢献してブランド力をさらに高めていきたい」と意欲的。5年以内には、現在の倍のハウス規模にするのが目標です。

産直マップ



生産者の思いを感じる 個性豊かな産直

ほうれんそうやりんどうなどのブランド作物をはじめ、八幡平市では地域の環境や特性を生かしたさまざまな野菜や果物、畜産などの生産が行われています。

それらの農畜産物が一堂に会する産地直売所は、まさに八幡平市の恵みの宝庫。また、市内9カ所の産直で構成される八幡平市産直連携協議会では、産直レシートラリーや八幡平産直大集合などのイベントを実施、食の魅力を発信しています。



道の駅にしね



松っちゃん市場



畑学び舎農産物直売所

安代りんどう、世界へ オリジナル品種 開発による ブランド化と海外展開

国内市場での取り組みに加え、1995(平成7)年にはニュージーランドの企業と独占栽培契約を締結。安代りんどうの苗の販売と栽培指導、輸出がスタートしました。

ビジネスはその後チリにも展開し、現在ではニュージーランドからのヨーロッパ輸出、チリからのアメリカ輸出が行われています。また、ニュージーランドとは合同育種も行っています。

世界という大きなマーケットを相手に、生産者と関係者の努力が続いています。



ニュージーランドと合同育種した品種「恋紅」



チリでの現地視察



展開、今後は八幡平市の地域ブランドとしての地位を築き上げていきたいと考えています。

**農業のスケールと醍醐味を
りんどう栽培を通じて実感**

20年の会社勤めの後、農業の世界に飛び込んだ打田内隆一さん。りんどうを生産品に選び、市内のりんどう農家で2年間の研修を積みました。「売上金額、経営方法、流通などを学ぶ中で、農業はどんなでもない業界だと実感し、『よし自分もやってみよう』と思うようになった」と、話します。

目標は栽培面積を100アールまで増やすことと、販売を手がける法人組織を設立すること。「これから農業を行う人の役に立ちたい」と、意気込みます。



打田内隆一さん

**日本一のりんどうの里達成
新たな農業ブランドも推進**

昭和47年に本格栽培が始まったりんどう。昭和63年に出荷数量日本一を記録した後は品質の向上に取り組み、市花き研究開発センターを核に独自品種の開発を進めてきました。現在は、独自品種の割合が9割を超え、品質・出荷数ともに「日本一のりんどう産地・八幡平市」を実現しています。

さらに、ニュージーランドやチリを訪問して研究開発の打ち合わせや生産者と意見交換を行うなど、海外でのりんどうの生産、輸出体制確立に向けて取り組んでいます。

また、市では、新たな地域特産として八幡平牛の販売拡大事業を

りんどうづくりの
楽しさをお伝えします

マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(COCOAR)でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

地域ブランドを生かした 農業の展開

Close-up 02 「安代りんどう」



八幡平サーモン

日本百名水にも選ばれた金沢清水。その良質で低温な湧き水と(南)清水川養鱈場のオリジナル飼料を餌に、丹精込めて育てたブランド虹鱈です。抗酸化作用が豊富で、鮮やかなオレンジ色の身とすがすがしくとろける脂に感動です。



**コマクサ杜仲茶
ポーク**

衛生や安全面に徹底的にこだわった環境で豚を育て、健康効果で話題の杜仲茶を微粉末にして飼料へ加えて与えています。しまりがあり、きめが細かくて柔らかく、甘みのある素晴らしい肉質は一度食べれば分かります。



八幡平牛

八幡平市の豊かな自然と良質な水で育てられる生粋の地元の牛。一頭一頭、農家の人が愛情込めて育て上げた、高品質な牛肉です。肉質はさらりとした脂の旨みが特長で、焼けば赤身のほのかな甘さと脂の口どけが絶妙です。

八幡平市の特産品





憧れの縦走路(巖手連峰)

松尾鉱山資料館

かつて東洋一の硫黄産出量を誇り、最盛期には「雲上の楽園」といわれた松尾鉱山。その資料の保存・展示などのため、昭和56年に整備された松尾歴史民俗資料館が、平成26年に「松尾鉱山資料館」として生まれ変わりました。

館内は、鉱山で実際に採掘された硫黄や当時の写真など、貴重な資料の保存・展示に特化した観光施設となっています。



八幡平市松尾鉱山資料館



松尾鉱山跡

**体験や交流の機会を増やし
地域振興につなげる**

旅のスタイルは団体ツアーから個人旅行に変わり、その土地でしかできない体験や交流の要素を取り入れた「ニーツーリズム」が求められています。

これらニーズを踏まえ、市観光協会ではいろいろなイベントを提案。秋田県鹿角市などと連携した「桜と雪の回廊キャンペーン」のほか、冬季は雪合戦や樹氷ツアーなどを盛り込んだ「八幡平・安比ゆきフェスティバル」を行っています。

また、盛岡駅と市内ホテル間を運行する無料シャトルバス、温泉などとセットにした八幡平自然散策パスも運行。観光事業者はもちろん、市民との連携や協働も図りながら、観光の基盤づくりを行っています。



鹿角街道ウォーキングツアー後の軽トラ市

同会が実施している鹿角街道を巡るツアーは、街道の探訪のほか、地元飲食店による食事提供や郷土芸能披露も加えた充実のプラン。市内外からの参加があり、会では市商工会の体験メニューとの連携も図り、旅行企画としての確立を目指しています。



安比高原スキー場

新たな
農と輝
を求めて



八幡平市観光
キャンペーンレディが
ご紹介します

マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(COCCOAR)でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

八幡平市の魅力を発信
ここでしか得られない感動を

Close-up 03 季節を実感する多彩な観光

**四季を通じ感動の絶えない
大自然は有望な観光資源**

八幡平、岩手山、安比高原などダイナミックな自然に囲まれた八幡平市。多様性のある自然環境は、観光資源としての大きな可能性を秘めています。

グリーンシーズンの魅力は、大自然と親しむアウトドアやトレッキング&登山。紅葉の美しさも格別で、温泉と合わせて訪れるのも楽しみのひとつです。冬はウィンタースポーツの拠点として、パウダースノーを求め、多くの人が訪れます。

これら観光資源を地域活性化に結びつけるため、市では八幡平市滞在型観光振興計画を策定、さまざまな事業を進めています。



鹿角街道ウォーキングツアー

地域の歴史を掘り起こせ
鹿角街道体験ツアー



鹿角街道まちづくりシンポジウム

市内を通る旧鹿角街道は、かつて盛岡(南部)藩の基幹道であった奥州道中の脇街道として、人や物資の流通に大きな役割を果たしてきました。この道を歴史遺産として活用しようとして、西根・安代地区で活動していた2つの市民団体と市、市観光協会により平成24年「鹿角街道まちづくり実行委員会」が設立されました。



藤原もともや 味噌茶屋 本高隆さん
プロから学べるのが体験工房の魅力。
味噌つくりの基本を教えます。



野田屋 野又紀子さん
美味しい塩麹料理を味わい、
自宅のようにくつろいでほしいです。



仙台菓子店 三浦明美さん
東京のお客様とレシビのやり取りをする
交流も生まれました。



安比塗器工房 工藤理沙さん
色漆を使ってお箸や皿に自由に絵付け。
楽しくて人気の体験です。



田嶋堂店 田嶋紀男さん
畳はいい素材を使うと仕上がりが違う。
本物のよさを知ってほしい。



北原製菓 佐藤良明さん
使うのは水と粉だけ。
手打ちにこだわった二八そばを作りました。



おとうふと湯波
ふっせつ花石田秀悦さん
うどんもそばも
粉の鮮度が味の力。
打ち立ての美味しさをぜひ。



新安比温泉 橋本雅彦さん
美味しいそばは切り方にもコツが。
体験後は温泉が待っていますよ。

新たな農と輝を求めて



魅力的な
商店街の方々に
店の自慢を聴きました
マークシートスマホやタブレットのアプリ(COCOAR)をご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

物産・商店街の活性化 商いのパワーを、いま

Close-up 04 「八幡平市商工会と会員たち」

市外からの訪問者が増加 「ぶらっと一日体験工房」

荒屋新町商店街で開催されて
いる「ぶらっと一日体験工房」。参
加者を会場に、手打ちそばや菓
子、漆塗りなどさまざまな体験
ができるイベントで、市内外から
多くの参加者が訪れます。
発案のきっかけは、バブル崩壊
後の観光客の減少でした。危機
感を持った八幡平市商工会は、
各店が個別に行っていた体験メ
ニューに加え、他の会員にも参加
を呼び掛けました。そして「プロ
が教える」「ライブ感あるものづ
くり」などのユニークな発想の事
業を、商店街を巻き込む形で立

ち上げました。

滞在型観光の確立を目指し 体験は西根・松尾地区へも

月1回の合同イベントをメイン
に始まった「ぶらっと一日体験工
房」も、現在は好きな日に好き
な体験をしたいという申し込み
が増えています。さらに市商工会
では、西根・松尾の各地区へもこ
の体験プログラムを広めるべくリ
サーチを開始。宿泊や温泉、買
い物なども結びつけたイベント
として企画し、滞在型観光の確
立を目指しています。
人が訪れるきっかけをつくり、
人が発する声をもつくり、生か
していく。売り買いを超えた交流
がここから始まっています。

クロステラス盛岡 「マルシェはちまんたい」

八幡平市の魅力を発信するイベ
ントとして、平成25年5月から盛岡
市中心街にある「クロステラス盛岡」
でスタートした「マルシェはちまんたい」。毎月1回、そば打ちなどの体
験メニューと農産物やスイーツの生
産者による出張販売を実施し、まさ
にマルシェ(市場)のようなにぎわい
で、ファンを増やしています。



マルシェはちまんたい開催中の様子



者養成機関との連携がある
こと。研修生や若手作家も
多く、漆器の修理などのリ
ビーター対策や、さらに後
継者不足などの問題解決に
もつながっています。
「工房へ入り、職人へのリ
スペクト(尊敬)が生まれた」
という渡辺さん。工房スタッ
フとともに新商品開発にも
取り組んでいます。

漆文化を世界に発信 安比塗ブランド化へ



八幡平市の誇る伝統工芸
のひとつ安比塗に関し、市
は平成26年度から新たなプ
ロジェクト「ブランド力向上
事業」を開始しました。
事業は3カ年計画。初年
度は「土台づくり」としてパ
ンフレットなど情報発信
ツールの作成ほか、陳列の
見直しや漆器工房スタッフ
のマナー研修などを実施。
2年目は国内販路の拡大を
掲げ、3年目の海外進出へ
向けた準備を進めています。
事業に携わるのは、地域
おこし協力隊の渡辺瑠未さ
ん(写真中央)。東京で宝飾
品会社の広報を担当してい
た経験を生かし、展開へ意
欲を見せます。
全国的には伝統工芸の衰
退が懸念されますが、安比
塗の強みは「安代漆工技術研
究センター」という漆器制作



ザマ・ジャパン株式会社

西根工業株式会社



アステラスファーマテック株式会社 西根工場



株式会社ニュートン

新たな
農と輝
を求めて



企業懇談会会長に
お話を伺いました

マーク用紙をスマホやタブレットのアプリ「ICOCAAR」でご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

働きたい街、
働きがいのある街へ

Close-up 05 「八幡平市企業懇談会」

老舗蔵元の 新しい挑戦

株式会社わしの尾

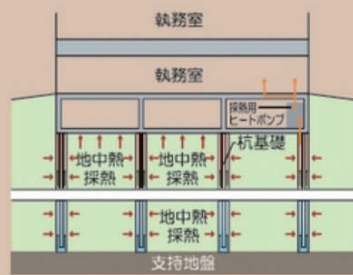
1829(文政12)年創業、岩手を代表する地酒の蔵元「わしの尾」。毎年2月には「酒と肴の器」展を開催、蔵見学や酒の試飲・販売のほか、地元作家と協力した器の展示・販売を行っています。老舗蔵元の新しい取り組みに注目が集まっています。



**研修で企業力の向上
若者の就業支援にも意欲的**

市企業懇談会では、会員企業が抱えている課題や問題に応じた研修会を開催し、解決策などを会員相互に共有。異業種の先進事例視察なども行い、各企業の競争力と柔軟性を高めています。また、県が推進する国際リニアコライダー(ILC)計画についての勉強会も行うなど、市域に捉われない情報やノウハウの習得に積極的に取り組んでいます。

毎年の夏には、県立平館高校ほか近隣高校との懇談会を開催。地元の若者が地元で就職できる仕組みづくりに取り組んでいます。このほか、同会では子育て支援策への協力など、企業活動以外での地域貢献へも取り組むたいと考えています。



地中熱利用イメージ図



八幡平市新庁舎の冷暖房設備

社会情勢の先行きが不透明な中、地方経済をけん引する企業を取り巻く環境も厳しさを増しています。市内の企業は、このような状況を乗り切る一助とするために「八幡平市企業懇談会」を組織しており、会員企業相互の協調と融和を深めるとともに、企業間の情報交換や従業員の福利厚生事業を実施しています。また、地域と一体となった事業も展開しています。

参加企業は、市に立地する34社。工業系を中心に、サービス業や食品加工業など、誘致企業のみならず、地場企業も参加しています。

企業同士が交流する場 八幡平市企業懇談会

平成26年11月25日に落成した八幡平市新庁舎。建設に当たっては、さまざまな最新技術が導入されました。その一つが建物杭基礎を利用する「地中熱探熱システム」。地下5m以深の地中温度は、夏・冬通して13〜15℃と一定であり、冷暖房熱源として有効なエネルギーとなります。新庁舎では、建物支持地盤に達する複数の杭基礎を地中熱探熱管として利用し、地中熱をくみ上げ、環境に配慮した冷暖房システムを使用しています。

同システムを提供するピーエス株式会社は、日本を代表するふく射冷暖房・加湿器・除湿機の専門企業。市内に生産工場「PSIDIC」を置き、快適な室内環境づくりに取り組んでいます。

市新庁舎に採用された 地中熱探熱システム



ピーエス株式会社



クロスカンントリー

スペシャルジャンプ

ジャイアントスラローム

●市の主な公共スポーツ施設一覧

施設名	主な施設内容	
八幡平市西根地区体育館	バレーボール2面	
八幡平市総合運動公園	多目的運動広場	400mトラック、ソフトボール2面、サッカー1面(ジュニア2面)、ゲートボール6面
	野球場	メインスタンド762人、内野スタンド1,340人、外野スタンド2,352人収容(計4,454人)
	体育館	テニス2面、バレーボール2面、バスケットボール2面、卓球10台、バドミントン6面
八幡平市松尾相撲場	土俵1面	
八幡平市松尾総合運動公園	多目的運動場	競技場120m×240m 野球2面・ソフトボール4面・サッカー2面
	多目的屋内運動場(アリーナまつお)	テニス4面、ゲートボール4面、フットサル2面
八幡平市ラグビー場	グラウンド4面	
八幡平市鬼清水球技場	グラウンド4面	
八幡平市中山ラグビー場	グラウンド1面	
矢神飛躍台	ノーマルヒル(K80)、ミディアムヒル(K55)、スモールヒル(K20)	
田山グラウンド	グラウンド(23,037㎡)、ローラースキーコース(651.3m)	
矢神体育館	エアライフル20射座	
八幡平市田山射撃場	屋根付き射座(ライフル射座30、エアライフル射座40、バイアスロン射座20)1棟、バイアスロンコース2.5km	
安代地区体育館	バレーボール・バスケットボール2面、バドミントン4面	

ラグビー施設も順次刷新
全国のラグーマンが集結

平成28年10月1日から本大会が開催される「2016 希望郷いわて国体」。市では、主会場の一つであるラグビー競技への対応として、市内会場の改修工事を進めています。

八幡平市ラグビー場での天然芝整備工事をはじめ、ラグビーゴール設置工事などを実施。他施設についても順次改修を進めています。完成した施設は、各種大会や合宿に利用されます。



八幡平市ラグビー場

岩手国体に向け、同校相撲場では、すでに県選抜強化選手の練習が行われています。「環境の素晴らしさと熱心な指導者の存在は大きい。平館高校が中心となって盛り上げていきたい」と、越田先生は意欲を高めています。

岩手県スポーツ特別強化指定を受けており、県内高校相撲をリードする県立平館高校相撲部。10人の部員のほか、週3日は5歳から中学生までの子どもたちも参加して、稽古が行われています。平成15年の東北高等学校相撲選手権大会での初優勝など、輝かしい戦績を誇る同校。監督の越田正信教諭は「八幡平市は、小学生大会も実施されるなど伝統的に相撲が盛ん。地元で指導者も多く、下地ができています」と、強さの理由を分析します。稽古には実業団相撲部で活躍するOBも参加し、子どもたちの指導に当たっています。

岩手県スポーツ特別強化指定を受けており、県内高校相撲をリードする県立平館高校相撲部。10人の部員のほか、週3日は5歳から中学生までの子どもたちも参加して、稽古が行われています。平成15年の東北高等学校相撲選手権大会での初優勝など、輝かしい戦績を誇る同校。監督の越田正信教諭は「八幡平市は、小学生大会も実施されるなど伝統的に相撲が盛ん。地元で指導者も多く、下地ができています」と、強さの理由を分析します。稽古には実業団相撲部で活躍するOBも参加し、子どもたちの指導に当たっています。

岩手県スポーツ特別強化指定を受けており、県内高校相撲をリードする県立平館高校相撲部。10人の部員のほか、週3日は5歳から中学生までの子どもたちも参加して、稽古が行われています。平成15年の東北高等学校相撲選手権大会での初優勝など、輝かしい戦績を誇る同校。監督の越田正信教諭は「八幡平市は、小学生大会も実施されるなど伝統的に相撲が盛ん。地元で指導者も多く、下地ができています」と、強さの理由を分析します。稽古には実業団相撲部で活躍するOBも参加し、子どもたちの指導に当たっています。



平館高校相撲部員と相撲に取り組む地域の子もたちと指導者

新たなる
農と輝
を求めて



県立平館高校
相撲部の様子を
ご紹介します

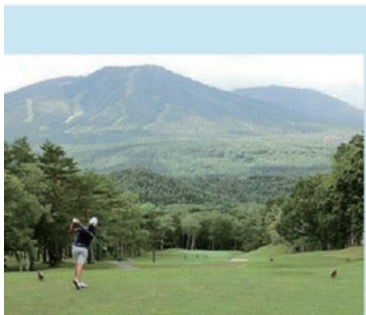
マーク周辺スマホやタブレットのアプリ(COCOAR)をご覧ください。
(詳しい使い方は3ページ参照)

合宿の里づくり
スポーツのまち八幡平市

Close-up 06 「合宿の里づくり」

施設の充実と豊かな自然
スポーツに最適な環境

多くの屋内外スポーツ施設に加え、トレーニングに利用できる自然環境の豊かさは、八幡平市の大きな特長であり、財産です。市では、この恵まれた環境を内外に発信。平成28年開催の「希望郷いわて国体」に向けて、既存施設の改修や新規グラウンドの整備、ボランティアの募集などを通じて、選手や観客の皆さんの支援体制充実を図っています。また、市内に数多くある宿泊施設との連携を強化し「合宿の里づくり」を推進。スポーツ施設と宿泊の両面から、合宿の受け入れ態勢を整え、「スポーツのまち八幡平市」をPRしていきます。



ゴルフ



ラグビーフットボール



ライフル射撃CP除く



相撲



テニス

2016希望郷
いわて国体本大会
八幡平市実施競技



松川に造成された「松川第1砂防堰堤」。国立公園にあることから、環境や景観、生態系に配慮しています。付近には湯ノ又公園も整備されています

素晴らしい まちづくりのために

平成17年9月1日の八幡平市誕生以来、平成18年度からの10年間を計画期間とする八幡平市総合計画基本構想に掲げる将来像「農と輝の大地」の実現を目指して取り組んできたさまざまな事業やプロジェクト。それらは着実に地域のありようを変化させ、新しい発想や協働のきっかけも生み出しつつあります。環境や暮らし、産業や文化などの分野で、現在取り組んでいる施策について紹介します。

自然と
共生する、
快適な環境の
まちづくり

連携に
よって築く、
躍進する産業の
まちづくり

健やかな、
創造性あふれる
人材の
まちづくり

自然災害から地域を守る 治山・砂防事業推進を要望

八幡平市は、岩手山や八幡平、秋田駒ヶ岳と多くの活火山群に囲まれており、土石流や火山対策が重要な施策の一つです。本市のほか、岩手県、秋田県の4市町で構成される「八幡平山系に係る直轄砂防事業促進期成同盟会」では、昭和61年の結成以来、砂防事業推進の要望活動を行っています。

市では、岩手山を水源とするナリヤ沢、小水無沢、洞ヶ沢東沢、西根牧野沢をはじめ、松尾地区の松川や北ノ又川、赤川などの流域に11カ所の砂防ダムを設置したほか、床固工や遊砂地などが整備されています。これら砂防ダムは、平成25年8月と9月の集中豪雨の際にも土砂や倒木の流出を防ぎ、下流域の被害を最小限に抑えました。近年、災害は、局地的な大雨

など、これまでにない異常な気象が原因となっています。災害対応に「100%」ということはなく、今後も地域住民の生命と財産を守る対策を講じていきます。

美しい自然は私たちの宝 保全し利活用の方策を探る

市は豊かな自然に恵まれ、その恵みを暮らしや産業に生かしてきました。自然を守り、健康で潤いと安らぎに満ちた快適な生活を営む環境を創り出すため、環境基本計画の策定などを通して、自然環境の維持と保全に努めています。

さらに、地熱や木質バイオマス、雪氷熱などの再生可能エネルギーの実用性を探り、省エネルギー対策としてクリーンエネルギー自動車導入などの環境対策にも取り組んでいます。

自然環境の保全と活用

治山・治水

資源エネルギー

自然環境

松川地熱発電所は、1966(昭和41)年に運転を開始した日本で最初の地熱発電所。地熱エネルギーを利用しているため、自然環境に与える影響が少ない発電施設です



自然環境の保全と活用

自然と共生する、快適な環境のまちづくり



恵まれた自然環境を有する八幡平市のシンボルのひとつである、明治百年記念公園の小水力発電所。農業用水路から発電用の導水路を引き、その水により発電します

生活環境の整備

自然と共生する、快適な環境のまちづくり

地域に根ざした防災組織として活躍が期待される消防団。市には本部ほか36分団があり、地域の安全を守っています。しかしなが

ら、団員の減少や高齢化が進んでおり、市では、防災対策専門員を中心に地域防災についての再構築・計画化を推進。自治会を中心とする自主防災組織の育成を急いでいます。

自主防災組織の育成と「特別消防班」の設置

毎年9月1日の「防災の日」に合わせて開催される岩手県防災訓練。東日本大震災以降、その重要性は増えています。平成26年8月30、31の両日、本市を会場に県防災訓練を実施。田頭小学校では全児童を対象に防災教育が行われ、子どもたちは、その後の訓練にも参加しました。参加した児童からは「自分たちにもできることを考えてみた」などの声が寄せられ、防災意識の啓発に役立ちました。このような防災教育の機会は、今後も定期的に設けることが重要です。



消防団を中心に実施される火災防衛訓練。市民への防災意識啓発にも役立っています

そのような中、平成24年度、市役所内に「特別消防班」を設置。消防団員不足による対応の遅れをなくすため、本庁舎・安代総合支所に消防車両を配備し、火災発生時には当該地の職員がいち早く現場に向かいます。広大な市域を有する本市ならではの、先駆的な取り組みとして注目を集めています。

高まる自然災害への意識 情報共有でその日に備える

長野県御嶽山の噴火をきっかけに、火山防災への意識が高まっています。松尾地区にある「イーハトーブ火山局」は、岩手山火山に関する情報発信拠点であり、防災についても学べる施設として利用者が増えています。

また、豪雨災害も多発する傾向にあり、市では各消防団管内で防災に関する懇談会を開催し、危険地域の情報共有を図っています。



主要地方道柏台松尾線から望む岩手山。市道は国道282号を起点に田山、荒屋新町、細野、松尾、平館、大更地区を中心に配置されています

社会基盤の整備

自然と共生する、快適な環境のまちづくり

西根バイパスが開通 地域交流の促進に弾み

市の都市計画道路全7路線のうちの一つとして、平成6年に工事が始まった通称「西根バイパス」が平成26年12月25日に全線開通しました。

西根バイパスは、一般国道282号の幅員狭小や線形不良などに起因する交通渋滞の緩和と地域交流の促進を図るために整備されたものです。整備は、1期工区（平成19年度開通）と2期工区に分けて実施され、開通により、大更や平館市街地の交通混雑などが解消されました。

大更駅を拠点に取り組み コンパクトシティづくり

西根バイパスの完成に伴い、JＲ花輪線大更駅の東側土地利用計画の実現が本格化しています。西根バイパスから大更駅に通じる

市道大更中央線の設計は一部終了、東口に設けられる公共施設用地には西根病院の移転新築が正式に決定しました。市道大更中央線の沿道は今後、公園を含んだ住宅供給可能用地としての整備を検討しています。一方、大更駅西口でも、西口駅前広場の整備工事がスタート。駅の東西を自由通路によつてつなぎ、駅を中心とした集約型のまちづくり（コンパクトシティ）の実現を目指します。

ニーズに応じた道路整備で暮らしの安全と安心感を

これまでの幹線道路整備に続き、市が管理する市道など985路線（平成25年度末現在）についても、予算や計画期間を考慮し、より効率的、効果的に整備するため、整備優先度を位置付けした「八幡平市道路整備計画」に基づき、道路整備を進めていきます。本計画の期間は20年間とし、社会情

勢を鑑みながら5年に一度、見直しを行っていきます。さらに、既存の道路で課題のある箇所などは、小規模な改良整備によつて、道路機能や危険箇所などを改善。安全な道路空間の確保につながるものについては、地域の人々と一体となつて取り組む「暮らし安心まちづくり事業」を創設し、暮らしの安心感の向上を図っていきます。



市道大更中央線付近。新たな住宅街が形成されつつあります

生活環境の整備

- 環境衛生
- 公園・緑地
- 公害防止
- 交通安全
- 犯罪防止
- 消防・防災



市民参加による救命講習会の実施により、地域の総合的防災能力の向上や自主防災組織の育成につながる動きが期待されます

産業の振興

産業分野と重要課題を抽出
項目ごとに施策を設定

産業振興では「農業」「林業」「工業」「商業」「観光」の5つの主要産業のほか、「雇用対策」「後継者育成」といった分野を設定、さまざまな施策を展開しています。
基幹産業の農業では「地域ブランドを生かした農業の展開」「担い手の確保・育成と地域営農の確立」「資源循環型農業の展開」「生産基盤整備の推進」「農業と他産業の連携」という5テーマを項目として掲げ、各種事業



間伐集材の様子。搬出された間伐材の木材利用および木質バイオマスエネルギーとしての利用料の増加が今後のテーマです

を実施しています。

林業の新しい活用方法
木質バイオマスエネルギー

林業も重要な産業のひとつとして位置付けています。山林は、市の総面積のおよそ78パーセントを占め、民有林の大半は利用期に達しており、造林・下刈り・枝打ち・除伐・間伐などの森林整備事業が進められています。その中で近年注目されているのが、間伐材などを利用する木質バイオマス発電です。

県内では、近隣の戸町のほか花巻市、野田村などに発電施設の建設が予定されており、広大な森林を有する本市は、発電燃料などの素材生産地として注目されています。市では、素材生産の効率化を図るための高性能林業機械に対するかさ上げ補助など、林業事業者に対する支援を行うとともに、市民の皆さん

産業の振興

農業	林業
工業	商業
観光	雇用対策
後継者育成	

に対しては、ペレット・薪ストーブなどの購入補助を実施し、総合的な森林資源の木質バイオマスエネルギー利用を促進していきます。

被災失業者への雇用と活躍の場を
奨励金ほか支援・研修事業

雇用対策では「東日本大震災による被災失業者の雇用対策」に取り組み、震災等緊急雇用対応事業などを実施しています。また、後継者育成では「産業の担い手確保のために」というスローガンを掲げ、新規就農者等支援事業などに積極的に取り組んでいます。

12のコミセンを核にした
コミュニティの活力づくり

平成26年4月、市内12地域の公民館は「コミュニティセンター（通称コミセン）」と名称を改め、より地域に密着した活動拠点としてスタートしました。コミセン化は、これまで公民館が行ってきた生涯学習やスポーツ事業に加え、いろいろな地域活動を自主的に企画・運営し、コミュニティの活力づくりをより一層推進する目的があります。

運営は地域振興協議会
地域の「やりたいこと」を実現

「コミセン」を運営するのは、各地域に由来からあったコミュニティを単位に設立された地域振興協議会です。市は、指定管理者制度を利用して、運営を協議会に任せ、「地域の人が地域でやりたいことを自分たちで決定できる」すなわ

ち、自治の枠組みを整えました。市は、コミセンについて月1回の事務局会議や4カ月に1度の代表者連絡会議を通じ、運営上の問題などを全体で共有しています。また、コミセンの職員を対象に、県の生涯学習支援センターから講師を招いて研修を行うなど、生涯学習や企画立案について学ぶ機会を提供しています。

予算配分の仕組みを大改革
地域と地域のつながり重視

「コミセンのスタートに合わせ、従来の「協働によるまちづくり補助金」を大幅に見直し、新制度「地域づくり一括交付金」を創設しました。これまでに1事業ごとに申請・交付・精算されていた交付金を12の協議会ごとに一括交付し、各事業への配分などを協議会で決められるようにしました。加えて、協議会とNPOまたは複数の協議会の連携を促すため、「地域連携

事業」を別枠で設けています。こうした制度の創設により、より円滑な連携が行われるよう支援していきます。



さまざまな「コミセン」事業を通じ、世代間交流など地域のつながりが広がっています

連携・交流の促進

- 広域行政
- コミュニティ活動
- 交流ネットワーク



平成26年度には岩手県立大と協働で住民自治による地域づくりの進展と地域計画策定に関する研究も行いました

連携・交流の促進

連携によって築く、躍進する産業のまちづくり



雄大な自然をベースに展開される本市の農業。ほうれんそうやりんどうはじめ積極的な農業支援策を行うことで新規就農者の増加を目指しています

教育・文化の充実

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

生涯学習で何よりも大事なものは、市民の学習意欲の向上です。

学習意欲の向上を図り 子育て相談環境の充実も

施策は「総合的な生涯学習推進体制の整備」「魅力ある多様な学習機会の充実」「多様で個性のある文化の創造」「スポーツに親しむ環境づくり」の4つのキーワード」に展開しています。

また、コミュニティセンターをはじめとする生涯学習施設を利用し、創作活動ができるよう支援しています。

教育・文化の充実

学校教育

社会教育

スポーツ

芸術文化

市民の日頃の芸術文化活動の成果を披露し、鑑賞する場「八幡平市芸術祭」や作品展示や舞台発表、演劇発表などが行われます。



学びが人と地域を豊かに 八幡平市生涯学習推進計画

市では、年代を問わず誰もが自由に学べる機会をつくるため、八幡平市生涯学習推進計画「はちまんだい学びの郷プラン」を平成21年度に策定しました。これは、市民の皆さん一人一人が学びを通して自己を高め、その成果を地域で生かし、市民が主体となつて生涯学習によるまちづくりを目指すというものです。

芸術文化の発表と 鑑賞の場を提供

本市では情報発信のほか「八幡平市生涯学習まちづくり出前講座」のメニューを拡充し、さらに「八幡平市芸術祭」や「コミセンまつり」などの学習成果発表の場の充実も図っています。また、児童・生徒の健全育成を図る「八幡平市総合教育支援事業」を実施しています。

市内では、さまざまな芸能や優れた工芸などが受け継がれています。市内の芸術文化団体と連携し、「八幡平市芸術祭」などを開催して、市民が積極的に参加できる創作、発表機会の提供を図っています。



成人検診は働き盛り世代にとって病気の早期発見にもつながる機会。受診しやすい環境づくりに取り組んでいます

保健・福祉の充実

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

健康は心豊かな生活の基礎 八幡平市健康づくり21プラン

市では、市民の皆さん一人一人が健やかで心豊かに生活できることを目指しており、具体的な行動目標となる「八幡平市健康づくり21プラン」を策定。栄養・運動・喫煙・がん・循環器疾患・こころなど12項目ごとの目標を定め、健康づくりを推進しています。



温泉施設を利用した高齢者健康教室。人気の高い講座です

特に、健康管理や病気の早期発見に有効な成人検診は、働き盛りの年代が受診しやすいよう各種検診を1日で行う「総合健診」を設定。さらに、総合健診と乳・子宮頸（けい）がん検診を合わせた「ミニドック検診」、仕事帰りにも受けられる「夕方検診」などを設けました。

「八幡平市ならではの」資源を生かした高齢者健康教室

平成26年度から各地域のコミュニティセンターと協力してスタートした「八幡平市市民健康講座」。医師や管理栄養士、健康運動指導士などの外部識者を招き、西根・松尾地区で開催し、健康への意識向上に一役買いました。

高齢者の健康づくりには、市内4カ所の温泉施設を利用した健康教室を週一回開催。グラウンドゴルフなどのニースポーツを取り入れたメニューが好評です。

0歳児保育の施設を増やし 子育てしやすい環境づくり

市では、子育てしやすい環境づくりに取り組んでおり、第三子出産への祝い金のほか、乳幼児健診などを行っています。また、要望の高い0歳児保育についても、市内2つの保育所で新たに始まり、公立・私立合わせて9つの保育所で実施しています。

西根・安代の両地区にはつどいの広場を設置し、子育て家庭の交流の場を提供するとともに、子育て相談などを行っています。

保健・福祉の充実

保健

医療

地域福祉

高齢者福祉

児童福祉

障がい者福祉

母子・父子福祉



地域の特性を生かした従来の公民館事業をさらに発展させ、地域が主体となつてさまざまな行事が行われています

1 夏の八幡平

樹海や高山植物の群れなど、大自然の風景を眺めながらのドライブは最高。湖沼周辺の散策や溪流釣り、キャンプなどアウトレジャーも楽しめます。

2 秋の八幡平

9月下旬ごろから色付き始め、毎年多くの観光客でにぎわいます。「森の大橋」周辺や松川地熱発電所付近から松川渓谷沿いは絶好の紅葉ポイントです。

3 アスピーテライン

八幡平市と秋田県を結ぶ全長約27kmのドライブコース。4月下旬には、道路の両側に「雪の回廊」と呼ばれる数メートルの雪の壁を見ることが出来ます。

4 八幡平の樹氷群

アオモリドマツの木々に、空気中の水分が氷結した樹氷群。「樹氷モンスター」とも呼ばれ、真冬の八幡平の風物詩となっています。

5 焼走り溶岩流

1700年代の岩手山噴火で流れ出した溶岩が冷え固まってできた、長さ3km、最大幅1kmにわたる国指定特別天然記念物。荒涼とした風景を見る者を圧倒します。

6 不動の滝

「日本の滝100選」にも選ばれた、白いしぶきを上げ、垂直に流れ落ちる落差約15mの滝。木々の緑と手前の赤い橋との景観が訪れる人を魅了します。

7 八幡沼

八幡平山頂付近の、アオモリドマツの原始林と湿原に囲まれた日本唯一のアスピーテ火山の火口沼。沼を囲む散策コースは一周約1時間で回れます。

8 七時雨山

「新日本百名山」にも選ばれた標高1,063mの七時雨山は、なだらかな稜線が広がり、トレッキングコースとして人気の山です。

9 安比高原

天然芝の高原が広がる自然豊かなリゾート地。冬は良質のアスピリンスノーでスキー、夏はゴルフやテニスなど、四季を通じて楽しみが満載です。

10 智恵の滝

高さ約30mから爆音としぶきを上げて滝壺に流れ落ちる様は、まさに秘境の大滝。断崖に近い急斜面を上り下りするため、山歩きに適した装備が必要です。

11 プナの二次林

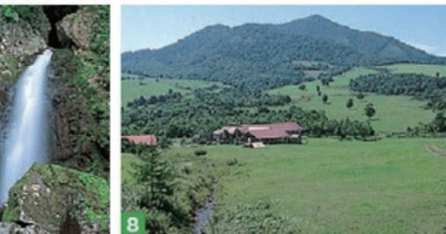
「森林浴の森・日本百選」に選ばれた、広大な面積のプナ林。「ぶなの駅」から出発する散策路が整備されており、自然観察に最適です。

12 黒谷地湿原

火山からの噴出物が川の流れをせき止めてできた堤が随所に見られ、さまざまな高山植物が一面を彩ります。「熊の泉」という湧き水も人気です。

八幡平市天然図鑑

世界に誇る八幡平の自然



岩手、秋田、青森の3県にまたがる国立公園。一帯が広大な火山帯であり、噴気・噴霧などの火山現象が各地に見られるため「火山の博物館」とも呼ばれています。数多くの温泉地や新緑、紅葉の名所としても知られ、大勢の観光客が訪れます。



1 安比塗

安代地区では藩政時代から生活に根ざした良質な漆器を製作してきました。漆を塗り重ねることで現れる美しいつや、使うほどに光沢が増します。

2 安比乳製品

伸び伸びと育った健康な乳牛から搾った生乳をぜひに使うおいしい乳製品。牛乳、アイスクリーム、ヨーグルトはギフトとしても喜ばれています。

3 お菓子

ふるさとの懐かしい時代を思い起こさせる定番の味から、市の豊かな自然の素材を生かした新しいお菓子。古きよき伝統の素材から生まれた銘菓の味です。

4 杜仲葉茶商品

西根の杜仲葉茶は市内で有機栽培された「杜仲」の葉と「香り米」をブレンドしたまろやかな味の健康茶です。

5 地熱染

松川温泉の地熱蒸気を利用して作るグラデーションが美しい絞り染めです。ハンカチやスカーフなどの小物のほか、華やかな風合いのドレスも人気です。

6 パナジウム天然水

岩手山麓の中で最も良好な水質を誇る金沢清水。「パナジウム」を多く含む、その湧水は貴重なミネラル成分、まろやかな口当たりが特徴です。

7 そば

良質な玄そばを吟味精製し、味と香りに優れた干しそばや、そば本来の風味が楽しめる石臼碾きそばなど、そばどころならではの豊富なラインナップ。

8 木工・工芸品・飾り炭

古くからの人々の知恵と伝統から生まれ、長く受け継がれてきた匠の技。職人が一つ一つ丹精込めて作りあげた工芸品の中に、八幡平市の風土と自然の息吹を感じます。

銘品を楽しむ
光る実りの
味と技

HACHIMANTAI Special product

9 山ぶどう製品

古来より滋養効果があるとされている山ぶどう。ジュースやワインはもちろん、ジャム、アイスクリーム、お菓子なども製品化され、お土産として喜ばれています。

10 はちみつ

安比高原の大自然から採取した、まったく人の手を加えない天然のはちみつ。各種ビタミンや多くのミネラルを含む、とても栄養価の高い理想的な健康食品。

11 わしの尾

創業が1829(文政12)年と県内でも屈指の老舗醸造元。仕込み水は岩手山の伏流水で、飲む人を飽きさせない口当たりの良い日本酒です。



- 1 八幡平ハイツ**
バリアフリー対応ホテル。岩手山を望む露天風呂が人気です。
☎0195-78-2121
住 八幡平市松尾寄木1-590-4
☎日帰/8時~20時(休前日の受付15時まで)
- 2 松川温泉 松川荘**
深山に抱かれた秘湯の宿。こんこんと湧き出る乳白色の湯が人気です。
☎0195-78-2255
住 八幡平市松川温泉
☎日帰/7時~19時
- 3 松川温泉 峽雲荘**
女性に人気の安らぎの宿。乳白色の湯が体をほぐしてくれます。
☎0195-78-2256 住 八幡平市松川温泉
☎日帰/8時~20時
- 4 藤七温泉 彩雲荘**
東北随一標高1,400mにある温泉宿は、泉質も眺めも抜群な八幡平の秘湯です(4月下旬~10月下旬)。
☎090-1495-0950(衛星電話)
住 八幡平市松尾寄木北の又
☎日帰/8時~18時
- 5 APPI温泉パティオ**
安比グランドアネックスと直結しながら、どなたにも利用いただけるパブリックバスです。
☎0195-73-6060
住 八幡平市安比高原605-365
☎日帰/13時~23時(土曜・日曜・祝日は11時~、最終受付は22時30分)
- 6 岩手県立温泉施設 焼野の湯**
日帰り温泉館。和風と洋風の浴室からは、雄大な岩手山を望めます。
☎0195-76-2013
住 八幡平市平笠24-728
☎日帰/9時30分~21時(11月初旬~4月中旬は~20時)
- 7 新安比温泉 静流閣**
日本でも非常に珍しい強塩泉の源泉かけ流しの湯宿です。
☎0195-72-2110
住 八幡平市田代43-1
☎日帰/10時~19時受付

- いこいの村岩手**
室内温泉プールや体育館、研修施設も備えた多目的温泉宿泊施設です。
☎0195-76-2161
住 八幡平市平笠24-1-4
☎日帰/9時~19時(月・火は11時~、水~金は10時~)
- ときわ苑**
日帰り入浴のほか、旅館、民宿、貸別荘と気軽に訪れることができる施設です。
☎0195-78-3535
住 八幡平市松尾寄木1-590-411
☎日帰/9時~20時
- 八幡平ロイヤルホテル**
雄大な自然に抱かれたホテル。温泉と四季折々の表情を見せる自然を堪能できます。
☎0195-75-2340
住 八幡平市松尾寄木1-590-5
☎日帰/11時~21時(祝日を除く月、木曜は15時~)
- 旭日乃湯**
1時間に300リットルの豊富な湯量が湧き出る「湧宝の湯」が自慢の宿です。
☎0195-75-2340
住 八幡平市松尾寄木1-135-2
☎日帰/9時~22時
- ホテル安比グランド**
広々とした大浴場は、旅の疲れやスポーツ後の疲労を癒してくれます。
☎0195-73-5011(代)
住 八幡平市安比高原
☎日帰/12時~翌10時30分(水曜は15時~)
- 安比豊畑温泉フロンティアの湯**
低張性弱アルカリ性高温泉は茶褐色で、浴用と飲用泉が楽しめます。
☎0195-72-5740
住 八幡平市細野434-1
☎日帰/土曜・日曜・祝日は9時~21時、平日は要予約
- 元湯 七滝**
素朴で昔ながらの温泉宿。100%かけ流しの湯は体を芯から温めてくれます。
☎0195-78-2333
住 八幡平市松尾寄木1-590-228
☎日帰/9時~20時30分
- 松川温泉 松楓荘**
深流沿いの混浴露天風呂や洞窟風呂など趣向を凝らした浴室が温泉ファンを魅了しています。
☎0195-78-2245
住 八幡平市松川温泉(寄木1-41)
☎日帰/8時~20時
- 八幡平温泉館 森乃湯**
日帰り温泉施設。2段構造の露天風呂が楽しめます。
☎0195-78-3611
住 八幡平市松尾寄木1-590-280
☎日帰/10時~22時(受付は21時まで)
- 安比温泉 岩畑の湯**
美人を育む天然温泉。肌によさしい泉質で保温効果も抜群です。
☎0195-73-5321
住 八幡平市細野119-5
☎日帰/月曜~土曜は12時~20時、日曜・祝日は10時30分~20時
- 自然休養村なかやま荘**
高原のリゾート地に建つ、四季を通じた旅の宿。源泉はマグマの湯です。
☎0195-78-3132
住 八幡平市松尾寄木2-512
☎日帰/7時~9時、11時~21時
- 八幡平ライジングサンホテル**
洗練された館内で優雅なひとときを。露天風呂からは岩手山を眺めることができます。
☎0195-78-2170
住 八幡平市松尾寄木1-590-226
☎日帰/14時~20時
- 八幡平リゾートホテル**
スキー場に隣接。冬はホテルを出ると目の前がグレンデという好立地です。
☎0195-78-4111
住 八幡平市松尾寄木1-509-1
☎日帰/11時~17時
- 四季館 彩冬**
旬の素材を生かした食事が人気の安比の食の宿。趣向を凝らしたお風呂も人気です。
☎0195-72-5344
住 八幡平市赤坂田254-9
☎日帰/11時30分~15時
- 綿帽子温泉館 あずみの湯**
洋風、和風風呂の他、エレキ風呂、露天風呂などバラエティ豊かなお風呂がそろっています。
☎0195-72-6811
住 八幡平市細野436-9
☎日帰/10時~21時(20時で受付終了)
- おらほの温泉**
日帰りの温泉施設。源泉かけ流しの天然温泉の他、グラウンドゴルフなどを楽しむことができます。
☎0195-75-1515
住 八幡平市大更18-88-208
☎日帰/10時~22時



先人の思いに触れる

八幡平市ヒストリーガイド

HACHIMANTAI history art·culture



10 線刻五尊像鏡

(唐花双鳳八棱鏡)
鏡面に5体の仏が線刻され、上下に瑞花、左右に鳳凰、外辺に唐草文を記しています。唐鏡から和鏡への過渡期を示しています。[県指定文化財]

7 殿坂の石碑

板碑ともいわれる石塔婆で、延文2年の南朝年号が刻まれた極めて特異なものです。県北地方で唯一の時衆板碑です。

8 安比川上流域の木地師関係資料

安代地区は、古くから漆器のほかに木地も作ってきました。木地師の製作道具と木地師関係文書が県の文化財に指定されています。

9 浅沢神楽

二戸市浄法寺町から伝わったとされ、一時は断絶しましたが、昭和50年に地元唯一の伝承者の指図により復活。現在は、地区の子どもたちに継承されています。

4 平笠裸参り

寒中に難行苦行することにより、無病息災、家内安全、五穀豊穡を祈願。戦時に銃後を守った女性たちによって始められ、全国的にも例のない女性の修行として知られています。

5 兄川先祓い

先祓いとは、祭礼行事の神輿の前を舞いながら祓い清める民俗芸能。兄川先祓いは、刀を持って踊る勇壮なもので、躍りに素朴な風習が残っているのが特徴です。

6 佐比内山の神

山の神は、古くから山仕事をする人々の素朴な民間信仰を象徴するものです。一木造りの男神像で、仏像から神像に変わる過程を示す貴重なものです。

1 横間虫追い祭り

天明3年の大飢饉で集落の人々が大変困り、「五穀豊穡」「悪病退散」「病害虫退散」の願いを藁人形に込めて田畑を巡り歩いたのが始まりとされています。

2 木造地藏菩薩立像

伝説の古代寺院、沢阿寺から遷座したと伝えられる平安仏です。戊辰戦争で盛岡藩家老の榎山佐渡が、その姿に感動したといわれています。[県指定文化財]

3 七時雨一里塚

鹿角街道が七時雨山を迂回し「車の走り跡」を越えて最初の一里塚です。江戸時代の絵図面には「大難所雪中牛馬不通」と記される難所でした。

1 イーハートトライアル

毎年8月の最終土・日に開催されるオフロードの祭典。八幡平市を出発し、北緯40度線の田野畑村まで往復する約380kmのコースとなっています。

2 岩手山焼走りマラソン

岩手山麓の雄大な自然をステージに開催している恒例の大会。一般、中学生の各コースに加え、家族2人1組で走るコースで健脚を競います。

3 安比高原除夜の花火

除夜の花火は、県内外から1万人以上の見物客が集まる恒例の花火大会。ゆく年に感謝し、くる年の平穏無事を祈って花火を打ち上げます。

4 イーハート・ヴォア安比自然学校

宮沢賢治の自然観に学び、自然と人間の関係、地球環境を大事にすることを前提にした豊富な体験教室。昔からの生活の知恵をありのままに体験することができます。

5 あっぴりレーマラソン

子どもから大人まで、仲間で作って、42.195kmをタスキでつなぐりレーマラソン。安比高原の爽やかな風の中、完走を目指します。

6 安代そば道場

そば打ち歴20〜30年の地元の主婦たちがそば作りを教えています。小麦粉を一切使わない十割そばが、安代そばの特徴。手作りしたものをその場でいただけます。

7 八幡平山賊まつり

紅葉の八幡平で豪快に食べて遊ぶ八幡平山賊まつりは、さくら公園イベント広場で開催。民謡の全国大会や特産品販売など多彩なイベントで盛り上がります。

8 安比高原スキー場

もはや全国のスキーヤーで知らない人がいないほど広大なコースと設備、良質のアスピリンスノーは国内トップレベルです。

時時にはは熱く、 八幡平市のイベントガイド

HACHIMANTAI event experience

- 2月 八幡平・安比ゆきフェスティバル
- 1月 平安裸参り
- 12月 安比高原除夜の花火
- 10月 八幡平山賊まつり
- 9月 マラソン大会
- 8月 八幡平市夏まつり
- 7月 岩手山開き
- 5月 不動の滝まつり
- 4月 八幡アスリートライク

八幡平市議会・各常任委員会などの委員構成
※平成28年5月13日現在

常任委員会	役職	議員名
総務常任委員会	委員長	工藤 剛
	副委員長	畠山 康
	委員	北口 和男
	委員	米田 定男
	委員	関 善次郎
	委員	田村 孝 小野寺昭一
教育民生常任委員会	委員長	遠藤 公雄
	副委員長	井上 辰男
	委員	高橋 光幸
	委員	高橋 守榮
	委員	山本 力男
	委員	大森 力男 立花 安文
産業建設常任委員会	委員長	高橋 悦郎
	副委員長	田村 善男
	委員	渡辺 義光
	委員	大和田順一
	委員	伊藤 一彦
	委員	工藤 直道 工藤 隆一
議会広聴広報常任委員会	委員長	関 善次郎
	副委員長	工藤 隆一
	委員	高橋 光幸
	委員	大和田順一
	委員	高橋 悦郎
	委員	工藤 剛
議会運営委員会	委員長	大森 力男
	副委員長	米田 定男
	委員	伊藤 一彦
	委員	高橋 守榮
	委員	田村 孝
	委員	遠藤 公雄 立花 安文

市議会は、市民から選挙で選ばれた議員で構成されています（議員定数22人、任期4年）。市民の代表者として、市政運営や施政方針の決定などに当たることから「議決機関」と呼ばれています。

これに対し、市議会の決定に基づいて実際に仕事を行うのが、市長に代表される行政であり、「執行機関」と呼ばれています。市議会と行政は、対等の立場に立ち、お互いに尊重し、議論しながら、より良い市の実現を目指しています。

市民とともに八幡平市の
明るい未来をめざして



副議長 渡辺 義光



議長 古川 津好



教育長 遠藤 健悦



副市長 岡田 久



市長 田村 正彦



市では、市民のための行政運営がスムーズに展開されるよう、市政に関する積極的な情報提供や情報公開に努めています。

また、複雑・多様化する市民ニーズ、地域課題の声を市政に反映させるため、市長とのテーマトークやフリートークの開催、パブリックコメント制度などを通じ、市民の声を反映できる広聴・広報に取り組んでいます。

今後とも、市民との協働で推進する特色ある地域づくり、農林業や観光などの活性化、防災など、各地域の振興に活発な市民参画が行われるよう支援していきます。



1 情報公開の推進

市民参加と情報の共有

情報公開および個人情報保護施策の充実
広報活動の充実
(広報紙の発行、ホームページの充実)
会議録などの公開

2 市民参加による
まちづくりの推進

市民の声を市政に

男女共同参画基本計画の推進
市長とのフリートーク・テーマトークの開催
パブリックコメント制度の活用



3 地域審議会の設置

まちづくり計画への市民参加

地域審議会の充実



市民と一体となった協働のまちづくりが進んでいます。誰もが住みよいと感ずるまちにするための積極的な取り組みが、市内各地で始まっています。

開かれたまちづくりの推進



八幡平市民歌

作詞・保岡直樹 作曲・林 芳輝

1 若い息吹に 満ちあふれ
農と舞の 夢よふ大地
ながれ清らかな 川がある
いのち育む 土がある
四季の恵みの 幸うけて
ああ あしたを拓く 八幡平市

2 花はリンドウ 咲き薫り
ふれあう人の和 明るい笑顔
みどり豊かな 山がある
歴史をさやく 路がある
心ひとつに 肩よせて
ああ しあわせ築く 八幡平市

3 伸びるアカマツ たくましく
飛翔くヤマドリ 輝く空へ
ここに理想の 街がある
未来を彩る 虹がある
力あわせて 躍進の
ああ 希望に燃える 八幡平市

わ か い い ぶ き に み ち あ ふ れ
は な は り ん ど う さ き か お り
の び る ア カ マ ツ た く ま し く
み の り と ひ か り の ち め よ ぶ だ い ち
ふ れ あ う ひ と の わ あ か る い え が お
は ば た く ヤ マ ド リ が が や く そ ら へ
な が れ き よ ら な か わ が あ る い
み ど り ち た か な や ま が あ る れ
こ こ に り そ う の ま ち が あ る あ
の ち は く く ひ つ ち が あ る し
き し き さ や く み ち が あ る こ
す を い る ど る に し が あ る ち
き の め く み の さ ち ろ う け て あ - - あ
こ ろ ひ と つ に か た よ せ て あ - - あ
か ら あ わ せ て や く し ん の あ - - あ
あ し た き ひ ら く は ち ま ん た い し
し あ わ せ き ず く は ち ま ん た い し
き ほ う に も え る は ち ま ん た い し

(平成22年11月3日制定)



市章

(平成17年9月1日制定)

八幡平市の市章は、八幡平市の「八」をモチーフとした青空に太陽が光り輝き、その下には市を象徴する3つの山(岩手山・八幡平・安比高原)と、裾野に広がる豊かな大地を配し、交流拠点・八幡平市の発展を表現しています。

八幡平市市民憲章

(平成18年11月3日制定)

八幡平市は、岩手山・八幡平・安比高原の裾野に広がる大自然にめぐまれた農(みのり)と舞(ひかり)の大地です。わたくしたちは、心をつなげて、お互いの幸せを願い、ここに市民憲章を定めます。

- 1 わたくしたちは、自然をはぐくみ、景観にすぐれたまちをつくります。
- 1 わたくしたちは、心身をきたえ、活力にみちたまちをつくります。
- 1 わたくしたちは、ふれあいを大切に、人情あふれるまちをつくります。
- 1 わたくしたちは、共に学び働き、暮らしのゆたかなまちをつくります。
- 1 わたくしたちは、限らない未来に向け、希望にもえるまちをつくります。

市の花・鳥・木

(平成18年11月3日制定)



●市の花
リンドウ
リンドウ科の多年草で、青紫色の鐘形の花を咲かせます。本市は産地、生産量とも日本一を誇り、海外への輸出も拡大中。躍進を続ける市を象徴するのびやかな花です。

●市の鳥
ヤマドリ
日本の固有種・キジ科の留鳥で、まだら模様の茶褐色の羽毛と筋模様の長い尾のある美しい鳥です。市内全域の山林に生息し、市民になじみの深い鳥です。

●市の木
アカマツ
マツ科の常緑針葉樹木で、本県産の代表的樹種です。市内いたるところに生育し、樹齢100年以上のアカマツ天然林もあり、そのたくましさは伸びゆく市になぞらわしい木です。

ACCESS GUIDE

八幡平市へのアクセス

市内に3カ所のインターチェンジがあり、道路交通も非常に便利です。



列車で

東京	東北新幹線 2時間11分	JR花輪線 42分	大更
仙台	東北新幹線 39分	JR花輪線 59分	安比高原
八戸	東北新幹線 30分	JR花輪線 1時間14分	荒屋新町

※最速到達時間

車で

川口JCT	5時間21分 512.1km	12分 20.1km	西根IC
仙台宮城IC	1時間53分 179.7km	19分 29.6km	松尾八幡平IC
		36分 52.5km	安代IC

※車とバスの所要時間は目安です。

高速バスで

東京	7時間25分	盛岡
盛岡	48分	安比高原スキー場
盛岡	48分	テレトラック安代
盛岡	1時間3分	田山パーキング

路線バスで

盛岡	1時間36分	八幡平リゾート・パノラマスキー場 下倉スキー場
盛岡	1時間50分	八幡平頂上

北東北3県の中心に位置

八幡平市は県都・盛岡市の北西部に位置し、秋田・青森の両県に隣接しています。東北自動車道・八戸自動車道と国道282号、さらにはJR花輪線が縦貫しており、北東北の交流拠点として恵まれた環境にあります。

雄大な自然を生かした産業のまち

国立公園である八幡平をはじめ、雄大な自然の宝庫ともいえる八幡平市。交通網が整備されている上に、温泉も数多く湧き出ていることから、観光のまちとしての取り組みも盛んです。大自然の恵みでもある農畜産物を生かし、八幡平ブランドとして商品化するなど、産業の振興に取り組んでいます。



【八幡平市役所】〒028-7397 岩手県八幡平市野駄第21地割170番地 tel.0195-74-2111 fax.0195-74-2102
 【西根総合支所】〒028-7192 岩手県八幡平市大更第35地割62番地 tel.0195-76-2111 fax.0195-75-0469
 【安代総合支所】〒028-7592 岩手県八幡平市叭田70番地 tel.0195-72-2111 fax.0195-72-3531

<http://www.city.hachimantai.lg.jp/>